

森林経営管理制度の円滑な運用を目指して 共同研究成果を発表

～ 発表課題 リモートセンシング技術を活用した基礎的な森林情報把握の取り組み ～

10月29日、30日の2日間にわたって、熊本市の「くまもと県民交流会館パレア」において、九州林政連絡協議会(会長:原田九州森林管理局長)主催により、「令和元年度森林・林業の技術交流発表大会」が開催されました。

本大会は、九州・沖縄の産学官の森林林業関係者が一同に会して、日頃の取り組み、研究成果を発表し、森林・林業の活性化、林業技術の向上を目的として、平成27年度から九州林政連絡協議会が主催者となり開催されています。

開会式では、主催者を代表して林 九州森林管理局次長から「本日は、日頃の業務の中で疑問に思ったことなどの研究成果を発表していただきます。また、高校生の部でも6課題の発表が予定されており期待しています。落ち着いて聴衆に力強く研究成果を訴えてください。そして、特別講演として九州大学、鹿児島大学、琉球大学から発表をいただくことになっています。」と挨拶がありました。

大分森林管理署からは、(株)エフバイオスと共同研究協定を締結し、平成31年4月にスタートした森林経営管理制度の円滑な運用を目指して、森林の経済性、林業経営に適した森林の分布、面積など基礎的な森林情報を把握する手法について取りまとめ、植薄森林技術指導官、田吹技官、木下技官、(株)エフバイオス森林調査室の大久保主任(早稲田大学人間科学学術院人間総合研究センター招聘研究員)と共同発表しました。

本大会の講評の中で、審査委員長(森林総合研究所 陣川九州支所長)から、「本年度は、一般の部27課題、高校生の部6課題、特別講演3課題を発表していただきありがとうございました。発表された課題は素晴らしい着眼点でした。また、高校生の部は今回も素晴らしい取り組みの発表でした。このような発表会が、森林林業の活性化につながればと思います。」と講評がありました。



左から 木下、植薄、大久保、田吹の各発表者



共同研究者 (株)エフバイオス 大久保氏



講評 審査委員長
(陣川 森林総合研究所九州支所長)